

③実施状況（敬称略）

【1日目】 2月8日(土)

8:00 千葉駅東口・京葉銀行本店前 集合(千葉市)



- ・参加者の集合時間は出発時間の10分前である7時50分で、到着していない参加者には、受託者から電話連絡を行い、出発時間までには参加者13名全員が到着。
- ・受付時にしおりや移住関連パンフレット等を収めたトートバックと名札を手渡し乗車。予定より5分遅れの8時5分に出発。

8:05～10:10 オリエンテーション、三星千絵さん【移住について】(バス車内)



- ・受託者よりツアーの趣旨を含めた挨拶及び注意事項を説明、その後、全員が自己紹介。
- ・三星千絵氏より、「移住について」をテーマとして、自身がいすみ市に移住するまでの経緯、当初は空き家を活用したシェアハウスを賃貸借し、現在の住まいは知り合いの紹介によることや、これまでの生活ぶりなどを紹介しながら、沿線のガイドを行う。(座って前方を見ながらの実施。写真右上のとおり)。参加者からは、地域との関わり方やコミュニティ、医療機関の有無、交通手段などといった幅広い質問がありました。

10:10～10:45 休憩・散策 道の駅たけゆらの里おおたき(大多喜町)



- ・ 予定より 10 分遅れの 10 時 10 分に到着。参加者はトイレを済ませ、食堂などを覗きながら農産物直売所での買い物や屋外に設置されている大多喜町の情報マップを見ながら、いすみ鉄道の話で盛りあがっていました。
- ・ 35 分程度滞在し、予定より 5 分遅れの 10 時 45 分に出発。

11:03～12:16 大多喜麦酒 宮崎繁さん【移住とビジネス】(大多喜町)



- ・ 道幅の広い場所で参加者はバスを降車、徒歩にて移動し、ほぼ予定どおりの 11 時 3 分に大多喜麦酒に到着。
- ・ 大多喜麦酒は、元農家の納屋を 1 階はビールの醸造所、2 階を B a r に改修して営業しており、その 2 階の B a r において、社長で醸造長でもある宮崎繁氏から「移住と

ビジネス」をテーマに、対談形式による講演を行いました。

- ・宮崎繁氏からは、ビールの醸造、大多喜町への移住に至る経緯、醸造所の設備費用は1,000 万円で補助率 2/3 の経済産業省のものづくり補助金を活用したこと、納屋は賃貸物件であり、持ち主が変わるため新たな賃貸借契約の必要に迫られていること、事業等の現状と、現在のビールの増産や販路拡大といった今後の展望のほか、移住して苦労したこと、これまでの経験とそれを踏まえた移住と創業に関するアドバイスなどを忌憚なく発言。参加者からは「ネガティブなことばかりじゃなくてもいいですよ。」と声を掛けられる場面も。
- ・参加者からは、ビールづくり・営業で苦労したことなどの質疑があり、宮崎繁氏からは、「商売を行う場合は規制等をクリアしていく必要があるため、土地の確保なども含め、いつでも相談に乗りますよ。」と話していました。
- ・その後、1 階に移動し醸造設備を見学、宮崎繁氏が熱心に説明。12 時 17 分に終了。
- ・クラフトビールとしては比較的廉価であったようで、購入希望者へ販売するとともに、後日購入の連絡があるなど、好評を得ていました。

12:40～13:20 昼食(BLACKRAMS キャンプ場)(勝浦市)



- ・当初、昼食のたこ飯弁当(上記写真左)は、大多喜麦酒からBLACKRAMS キャンプ場までの移動中の車内で取る予定でしたが、梅原慎吾氏もBLACKRAMS で講話を行うこととなったため、BLACKRAMS でいただくこととしました。

13:20～14:20 BLACKRAMS キャンプ場 斎藤祐之介さん【ファミリー移住】（勝浦市）



- ・予定時間の 14 時より 40 分早い 13 時 20 分から、BLACKRAMS 経営者の斎藤祐之介氏から「ファミリー移住」をテーマに対談形式による講演を行いました。
- ・家族構成は同い年の妻の侑奈さん、お子さんは小学 2 年生の善之助君、4 歳の優愛奈ちゃんの 4 人家族。移住は、サーフィンやアートを学びたいと想い、飲食店やキャンプ場の経営を念頭に外房方面で探した結果、勝浦市に移住することとした。
- ・参加者からは、「移住して困ったこと」、まとまった土地の確保、開設期間や収入などといった「キャンプ場の運営全般に関すること」のほか、勝浦市の移住支援制度や子育てなどについて質問。ラストの 10 分前からは、妻の侑奈さんも加わり、丁寧に回答していただきました。
- ・質疑応答終了後は、4 か月を掛けて D I Y したキャンプ場を見学し、14 時 20 分に終了。

14:35～15:30 梅原 慎吾さん【移住支援と地域情報】（勝浦市）



- ・15 分の休憩を挟み 14 時 35 分から、Share AKIYA だいたい荘を運営、勝浦市の地域おこし協力隊隊員でもある梅原慎吾氏から「移住支援と地域情報」をテーマに、対談形式による講演を行いました。
- ・当初は、Share AKIYA だいたい荘での講話を予定していましたが、収容人数等を考慮した結果、BLACKRAMにて講話を行い、Share AKIYA だいたい荘は見学のみに変更しました。
- ・その Share AKIYA だいたい荘は、元々は民宿で、規模は7LDK、延べ床面積は約 100 ㎡、前任の地域おこし協力隊が購入し運営していたものです。
- ・空き家の活用方法として、まず片付けとなるが、家財の処分はイベント等で売却するか、勝浦市は費用が廉価であるため焼却処分している。修繕については、水回りの配管など、最低限の居住環境整備は大家が行い、自身は修繕を担当しているとのことでした。
- ・参加者からは、「空き家バンク制度」、「戸建ての賃貸価格」、「移住して苦労したこと」、ごみステーションの使用などに係る「地域コミュニティ(自治会)等への対応」のほか、「地域おこし協力隊に関すること」などについて、幅広く多くの質疑応答を行い、15 時 30 分に終了。
- ・バスに梅原慎吾氏が同乗し、駐車予定場所である興津港海浜公園駐車場に向けて出発。

16:10～16:45 Share AKIYA だいたい荘及び周辺を散策(勝浦市)



- ・バスは、16 時 10 分に興津港海浜公園駐車場に到着。Share AKIYAだいたい荘には徒歩での移動で、興津海水浴場脇の歩道を景色を眺めながら向かっていましたが、梅原慎吾氏の発案により興津の街中を寄り道散策。興津郵便局のほか、生活雑貨店では店内で品揃いなども見学し、16 時 30 分頃にShare AKIYAだいたい荘に到着。
- ・参加者は 16 時 45 頃まで、Share AKIYAだいたい荘の内部も含めて見学した後、キュステに向けて出発。

17:30～19:10 夕食・懇親会（勝浦市芸術文化交流センター キュステ）(勝浦市)



- ・17 時 30 分から、受託者の司会により開会の言葉の後、県より夷隅地域及び各市町の紹介を交えた挨拶を行い、立食形式による夕食を兼ねた懇親会を開始。
- ・夕食は、おにぎり工房かつあんのおにぎり、vegefields のオードブル 3 皿、うたうファームのジェラート、ペットボトルのドリンク類など。
- ・会場備え付けモニターで、千葉県誕生 150 周年記念事業で制作した P V と受託者が制作した各市町及び夷隅地域全域の P V を放映。
- ・先輩移住者として、訪問先の梅原慎吾氏、斎藤祐之介氏のご家族 4 名（うち子供 2 名）、勝浦市塩製作研究所代表の田井智之氏の総勢 6 名に参加いただきました。
- ・相談ブースは、夕食を取るため開始直後は閑散としていましたが、徐々に参加者が足を運び、ほぼ全員がどこかの市町のブースで相談を行っていたようです。
- ・19 時 10 分に夕食兼懇親会を終了。バスにて宿泊場所の勝浦ヒルトップホテルに移動。



19:15～ 宿泊(勝浦ヒルトップホテル)(勝浦市)

- ・受託者から部屋割りを発表、個人参加者の男性2人、女性5人のうち、男女とも各1組・4人が相部屋。部屋の鍵を渡すとともに、翌日の集合時間や場所を案内。



